公益財団法人 日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

探鳥会スタッフ通信　2016年1月号

「探鳥会スタッフ通信」は、探鳥会の考え方や様々な運営手法について、全国の連携団体の探鳥会リーダーの皆様と情報交換を行うための通信です。

目 次

◆探鳥会訪問記
（特集・会員を増やすための探鳥会②）・・1
◆岡山県支部からの情報
「Facebook ページで探鳥会情報を発信しよう！」・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
◆神奈川支部からの情報
「神奈川支部で初の女子会開催！」・・・・16
◆探鳥会保険集計結果・・・・・・・・・・・17
（2015年11月分）
◆普及室からのお知らせ・・・・・・・・・・19
・『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み
◆今月の購読者数・・・・・・・・・・・・・21
◆探鳥会スタッフ通信の購読について・・・22
◆編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・22

◆探鳥会訪問記（特集・会員を増やすための探鳥会②）

前号から引き続き、関東ブロック及び近畿ブロック所属の支部と一緒に開催している「会員を増やすための探鳥会」の様子をご報告します。今月号では次の６か所をご紹介します。

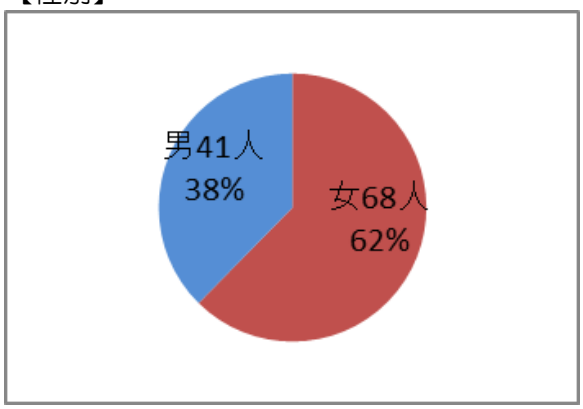
表１.

	開催日	支部名	開催場所
No6		奥多摩支部	昭和記念公園
No7	12/5(土)	千葉県	柏の葉公園
No8		栃木	羽田沼
No9	12/6(日)	和歌山県支部	和歌山城公園
No10	12/12(土)	栃木	みかも山公園
No13	12/13(日)	京都支部	岡崎疎水沿い

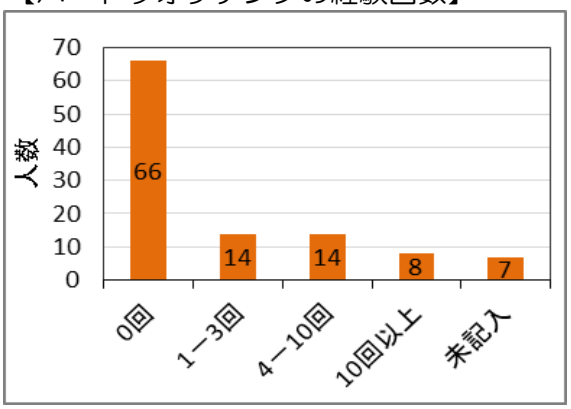
『はじめてみませんか、バードウォッチング in 昭和記念公園』（奥多摩支部）

【日時】2015年12月5日（日）9時30分～12時頃
【天候】晴れ
【場所】昭和記念公園
【参加人数】109名
【リーダー】17名
【お試し入会】28名（非会員のうち３割弱）
【広報】
＜インターネット＞ 財団HP、財団Facebook、レッツエンジョイ東京、環境らしんばん
＜メール＞ 一斉メール送信（10/20、21に全国の29,269名に送信）
＜チラシ＞ 探鳥会のご案内（9/20から全国35,000名に送付）
＜新聞＞ 読売新聞（12/2）、朝日新聞・アサコン（12/3）、東京新聞（12/5）

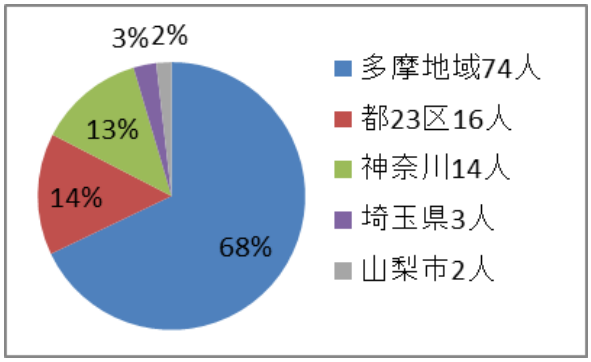
【性別】



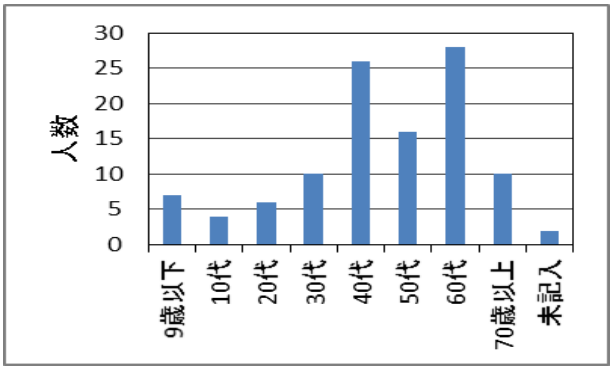
【バードウォッチングの経験回数】



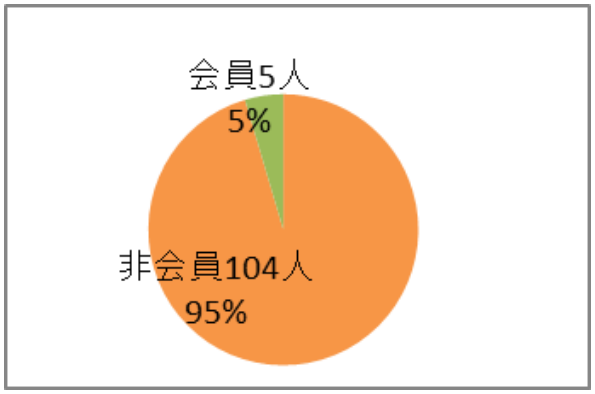
【お住まい】



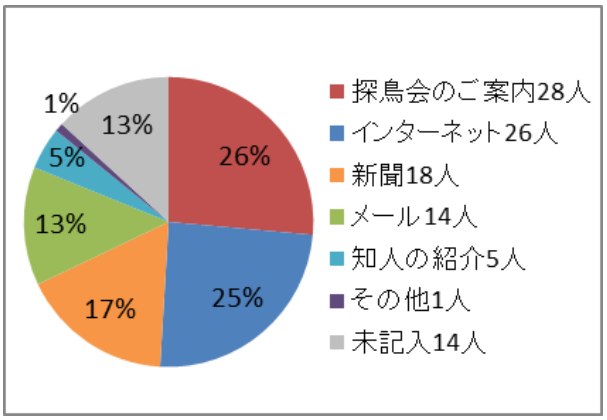
【年齢構成】



【会員／非会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

昭和記念公園は国営の公園で、東京都多摩地域にあり、JR 西立川駅からは歩道橋で直結した、アクセスの良い公園です。

受付時に参加者を３班に分け、園内を水鳥の池から花木園、バードサンクチュアリへと巡りました。池では水鳥、花木園では林の鳥、移動の途中では開けた環境の鳥を楽しめるコースになっていました。

参加者は 109 名と大所帯でしたが、広い園内のため、ゆっくりと観察することができました。また、舗装された平坦な道のりが多く、小さな子どもから高齢者まで、どの年代の方にも楽しめる環境でした。

■探鳥会の様子

当日はとても良いお天気に恵まれ、開園前の入り口付近には様々な団体が待ち合わせをしていて、大変な賑わいでした。

開始 30 分前にスタッフが集合すると、すでに数人の参加者が集まっていました。話を聞いたところ、貸出台数に限りのある双眼鏡を希望する方々だったようです。

集合時間の９時半にはすでに 100 名近い参加者が集まっており、支部のリーダー方も驚いている様子でした。早めに集まった参加者に双

眼鏡の使い方などを説明し、９時半過ぎになるとリーダーが挨拶をして開始となりました。この日の予定を説明した後、３つに分けたグループ毎に園内へと移動し、私は主に２班に参加しました。

まずは入り口からすぐ近くの池のほとりでアオサギを観察しながら、双眼鏡に慣れる練習をしました。

「コガモは子供のカモではないんですよ」

「一見地味ですが、よく見ると羽の色がきれいですよ」

との説明を受けながら、サギやカモなど水辺の鳥をじっくり観察しました。その後、林へと移動し、木立の中を進みながら、エナガやシロハラ、メジロなど、山野の鳥を楽しみました。

途中でツバキを見つけたリーダーから

「花びらをよく見て下さい。三角形に小さな穴が開いていたら、それはメジロが蜜を吸うために止まった印です。」

と説明がありました。参加者は穴開きのツバキを一生懸命探しており、「鳥を見る」だけではない楽しさを味わっていた様子でした。

最後にグループごとに鳥合わせをし、その後全員が集合し、リーダーから挨拶とお試し入会へのお誘いがあり、終了となりました。

▲水鳥の観察と双眼鏡の使い方レクチャー

■参加者の声

20 代カップル：バードウォッチングは初めてです。インターネットで探して参加しました。色んな鳥を見ることが出来て楽しかったです。

30 代家族連れ（お母さん）：元々父親がカメラ好きで自然のあるところへ出かけていたら、長男が鳥にはまりました。最近では支部の探鳥会へ参加させて頂いています。私も鳥を見るのは楽しいです。

■まとめ

今回 100 名を超す参加者がありましたが、財団の発行している「探鳥会のご案内」とメールで知った方が約４割を占めていました。奥多摩支部では「ミニミニ野鳥図鑑プレゼントハガキ」の配布に力を入れて下さっていたので、その効果が出たのではないかと思います。

１班の人数が 35 人前後とやや多いようでしたが、各班にリーダーは５人程いたため、参加者の方にはきめ細かい案内が出来ていたように感じました。終了後の反省会では、「次回はもう少し細かく班分けをして対応したい」「開催回数を増やしてはどうか？」など、前向きな意見が上がっていました。

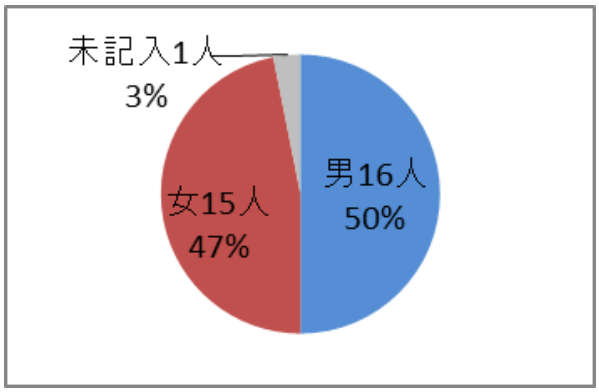
昭和記念公園は、新宿から電車１本で参加できる立地の良さ、大人数でもそれ程気にならない広さ、水辺と山野の両方が楽しめる環境があり、初心者向けの探鳥会にはとても適していると感じました。

（普及室／植木陽子）

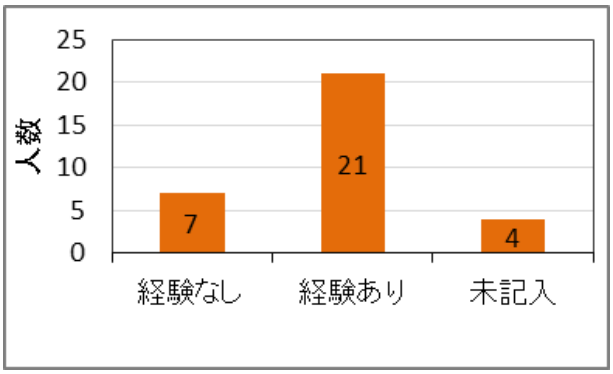
『柏の葉公園ビギナーズ探鳥会』（千葉県）

【日時】2015 年 12 月 5 日（日）9 時～12 時
【天候】晴れ
【場所】千葉県立柏の葉公園
【参加人数】32 名
【リーダー】8 名
【お試し入会】3 名（非会員のうち 1 割）
【広報】
＜インターネット＞ 財団 HP、財団 Facebook、環境らしんばん
＜メール＞ 一斉メール送信（10/20、21 に全国の 29,269 名に送信）
＜チラシ＞ 探鳥会のご案内（9/20 から全国 35,000 名に送付）
＜新聞ほか＞ 柏市広報（11/15）、東京新聞、読売新聞

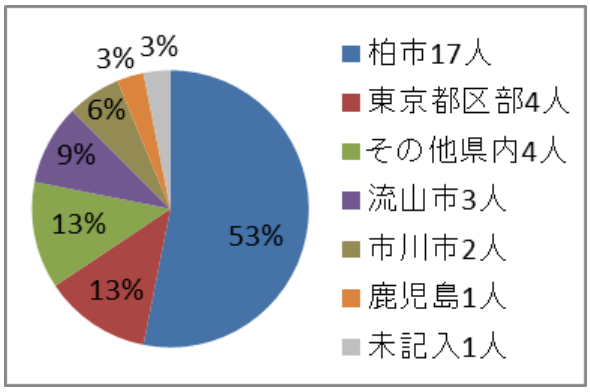
【性別】



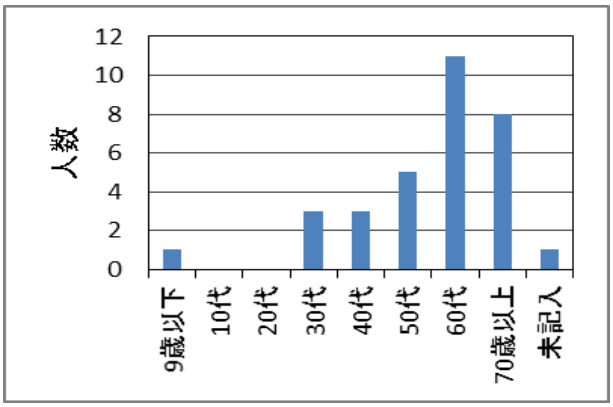
【バードウォッチングの経験回数】



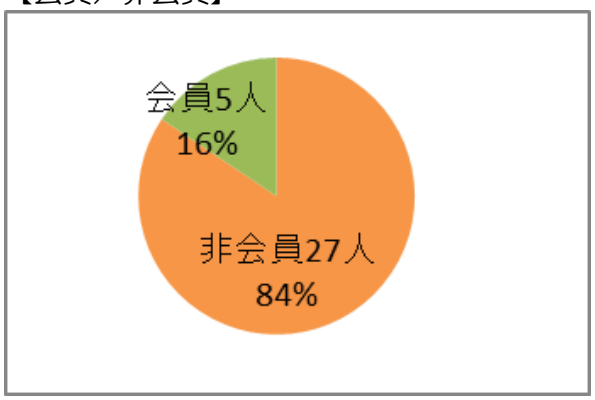
【お住まい】



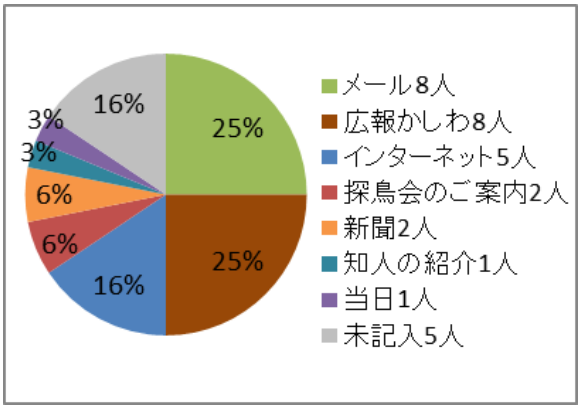
【年齢構成】



【会員／非会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

千葉県柏市の「県立柏の葉公園」は、つくばエクスプレス「柏の葉キャンパス」駅から徒歩約 15 分の場所にあります。45ha の敷地に芝生広場や林、池などがあり、のんびりと散策が楽しめる場所です。

当日は、60 代以上の方を中心に、小学 1 年生 1 名を含む 32 名の参加がありました。参加者には、「バードウォッチングに興味があるけれど、方法が分からないから参加した」という方も多く、「双眼鏡が初めて」という方もおられました。

公園内を歩きながら、林や芝生広場、池の鳥を観察し、最後に全員で見られた鳥を確認しました。

■探鳥会の様子

集合場所の「柏の葉キャンパス」駅前で、受付、双眼鏡の貸出と注意事項の説明などを簡単に行い、徒歩で柏の葉公園まで移動しました。公園入口で、参加者を 4 つのグループに分け、それぞれに 2 名ほどのリーダーが付き添って、案内しました。

コースの前半は、林と芝生広場を通り、虫を追うハクセキレイ、木の実をついばむカワラヒワの群れ、葉の落ちた枝先にとまるシジュウカラなどを観察しました。後半は、大きな池のふちに沿って園路を歩き、カワセミやカモ類、サギ類などを観察しました。

リーダーのみなさんは、時折冗談を交えながら、参加者に丁寧に説明をされていました。また、グループ分けをしたことで、リーダーの解説が全員にいきわたり、参加者も気軽に質問ができる雰囲気でした。観察した野鳥は、いずれも身近な鳥でしたが、ドバトとキジバトの違いや、ハクセキレイの素早い動き、カワラヒワの羽根の色などをリーダーの方が解説。参加者からは、

「いままでスズメだとおもっていたのは、カワラヒワだったのかな」

「いつも駐車場にいるのは、ハクセキレイだったのか」

「公園でいつも見るハト、朝、近所で鳴いているハトはどのハトだろう」

など、新しい発見や質問の声があげられていました。

まとめの時間には、見られた野鳥を確認しました。その際、A4 サイズにプリントされた野鳥の写真を使って解説していたので、野鳥の姿を確認しながら振り返ることができました。

▲まとめの時間には、見られた野鳥を写真で解説

■参加者の声

30 代女性：小学 1 年生の娘が野鳥が好きで、野鳥の会の小冊子の申込者に配信されるメールを受け取っていました。メールを見て、近所で探鳥会が開催されることを知り、参加しました。娘は家の近くにシジュウカラなどがいることを知っていたようですが、自分はその姿も知りませんでした。今日は実際に見ることができました

60 代女性：市の広報で知りました。普段から、庭に来る野鳥を知りたいと思っていたので、ちょうどよい機会と思い参加しました。

60 代男性：普段は一人でバードウォッチングを楽しんでいます。新聞でこの探鳥会を知り参加しました。一人で観察していると、わからないことも多いので、時々このような会で知識を得られるとよいと思っています。

■まとめ

日本野鳥の会千葉県が隔月で探鳥会を行っている江戸川では、初めての参加者も多いということで、初心者向けの対応に慣れておられました。

「柏の葉公園」は、千葉県としては初めて選んだ会場ということでした。選択の理由は、野鳥が観察しやすいことに加え、最寄り駅にショッピングモールがあり、探鳥会の後に買い物や食事が楽しめることも参加のきっかけになればとの考えがあったそうです。

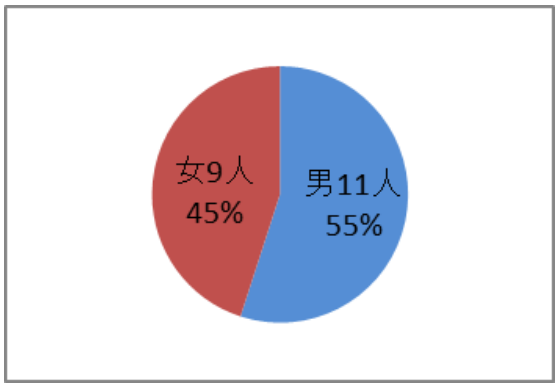
終了時に、支部オリジナルのバードウォッチングのヒントがまとめられたパンフレットと野鳥ぬり絵が配布され、帰ってからも楽しめるように考えられていました。全体に、初心者向けに配慮の行き届いた探鳥会と感じました。

（普及室／江面康子）

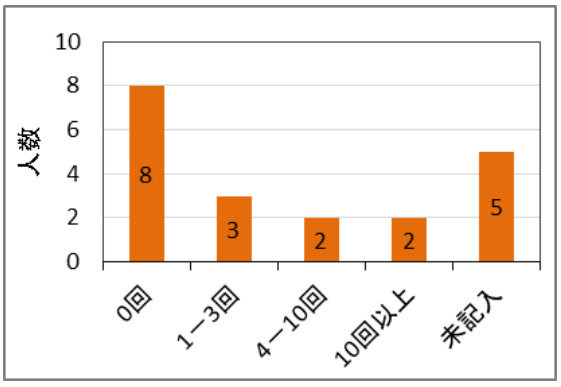
『大田原・羽田沼ビギナー探鳥会』（栃木）

【日時】2015 年 12 月 5 日（日）　9 時～12 時
【天候】晴れ
【場所】羽田沼
【参加人数】20 名
【リーダー】7 名
【お試し入会】0 名
【広報】
＜インターネット＞ 財団 HP、財団 Facebook、環境らしんばん
＜メール＞ 一斉メール送信（10/20、21 に全国の 29,269 名に送信）
＜チラシ＞ 探鳥会のご案内（9/20 から全国 35,000 名に送付）
＜新聞＞ 産経新聞、下野新聞

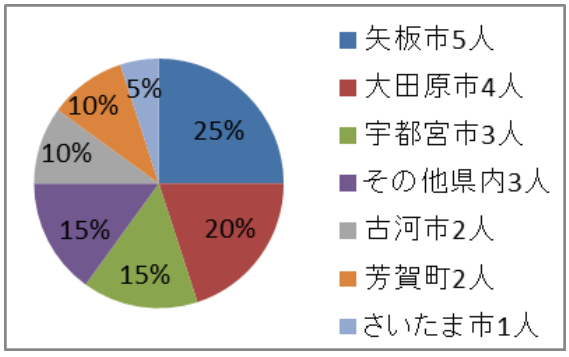
【性別】



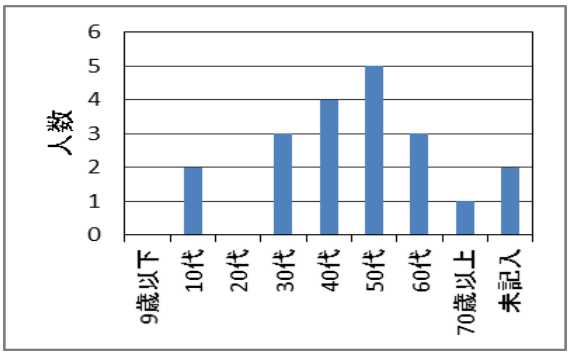
【バードウォッチングの経験回数】



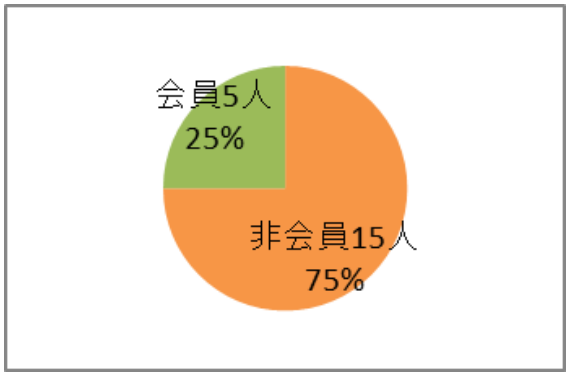
【お住まい】



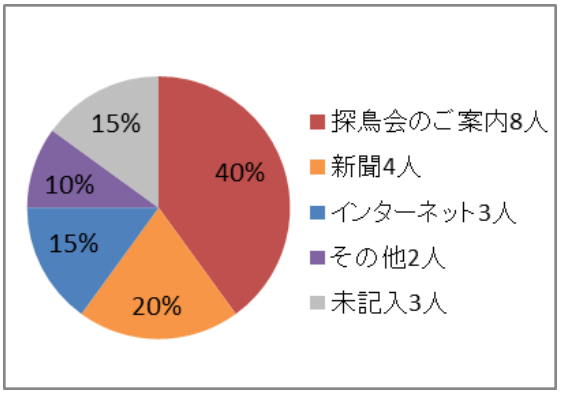
【年齢構成】



【会員／非会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

羽田沼は、栃木県大田原市にある湧水の溜め池で、県内有数の白鳥の飛来地です。一方、湧水に依存するミヤコタナゴの貴重な生息地でもあり、白鳥への餌やりによる水質汚染が問題になっています。

探鳥会コースは、沼の南西側を岸に沿って、北東側は農耕地と雑木林を抜けて周回することができるため、オオハクチョウやマガモなどの水辺の鳥から、モズやアオジなど農地や藪で見られる野鳥も観察できる設定でした。

この探鳥会では、NIKON 提供の高性能双眼鏡「モナーク７」の貸出をおこなってみました。

■探鳥会の様子

羽田沼は公共の交通機関で集まるのは不便なため、参加者は自家用車で集合されている方がほとんどでした。沼に併設された駐車場に集合した後、図鑑と双眼鏡の貸出を行い、リーダーの自己紹介・コースの説明・双眼鏡の操作方法の説明後、すぐにカモの仲間の観察になりました。リーダーの方が野鳥の解説を始めると、他のリーダーが参加者に寄り添って双眼鏡の操作確認やフィールドスコープの設置をするなど、チームワークの良さが伺えました。

また、当日はオカヨシガモやキンクロハジロなど多くの種類のカモが観察できたため、リーダーの方も識別ポイントに時間を割いて説明していました。参加者はカモに詳しくなった方も多いのではないでしょうか。

▲農耕地で一生懸命モズを探す参加者たち

■参加者の声

40 代夫婦：カモや白鳥が遠いロシアから来ていることに驚いた。野鳥を観察していると、その生活まで疑問が沸いてくる。

50 代夫婦：娘がバードウォッチングをはじめたので、私たちもやってみようと思った。これは面白いですね。

30 代女性：会社の同僚に誘われてきた。思った以上に面白い。こんなにたくさんの鳥たちがいるとは思わなかった。

▲観察種の確認と販売風景

■まとめ

日本野鳥の会栃木の新春探鳥会の会場になることだけあり、多くの野鳥が観察できました。探鳥会が終了すると、すぐにリーダーの方達が集まって当日の反省会を行い、よりよい探鳥会を作り出していこうという意識の高さが感じられました。

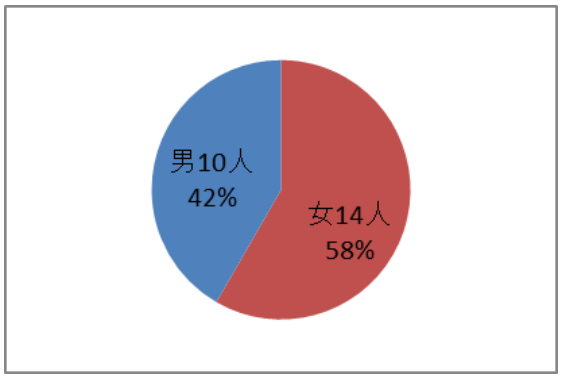
当日は、NIKON の協力により、30～40 口径の双眼鏡 20 台の貸出を行いました。参加者の方からは、「自分で持参した廉価の双眼鏡より、貸出の双眼鏡がとてもよく見える」とお褒めをいただき、後日 1 台のご注文がありました。私は“いい双眼鏡は上級者が使うもの”という先入観がありましたが、初心者にこそ、高性能の双眼鏡を使っていただき、羽根の美しさなどに感動して、バードウォッチングを楽しいものと感じていただく事が大切ではないかと感じました。また、支部の探鳥会で双眼鏡を紹介し、財団事務局の支部卸のシステムを利用して支部で双眼鏡を買っていただくことにより、支部の収入にもなります。今後、支部の皆さんには、「支部卸」をご利用いただけるようアピールさせていただきますので、よろしくお願いします。

（普及室／清水久）

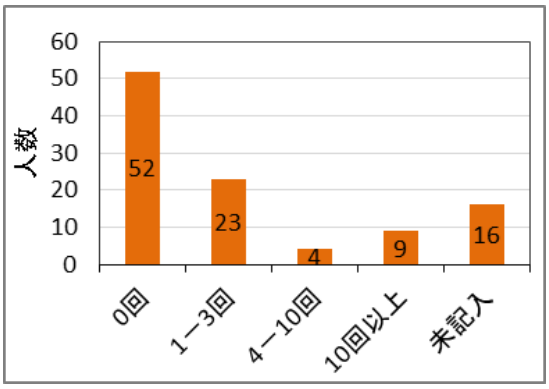
『和歌山城公園・ビギナーズ探鳥会』（和歌山県支部）

【日時】2015 年 12 月 6 日（日）9 時～12 時
【天候】曇り
【場所】和歌山城公園
【参加人数】24 名
【リーダー】9 名
【お試し入会】0 名
【広報】
＜インターネット＞ 財団 HP、財団 Facebook、環境らしんばん
＜メール＞ 一斉メール送信（10/20、21 に全国の 29,269 名に送信）
＜チラシ＞ 探鳥会のご案内（9/20 から全国 35,000 名に送付）
＜テレビ＞ NHK（12/4）
＜新聞＞ ニュース和歌山、産経新聞

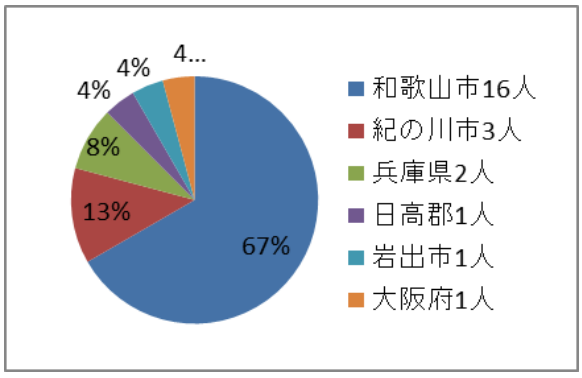
【性別】



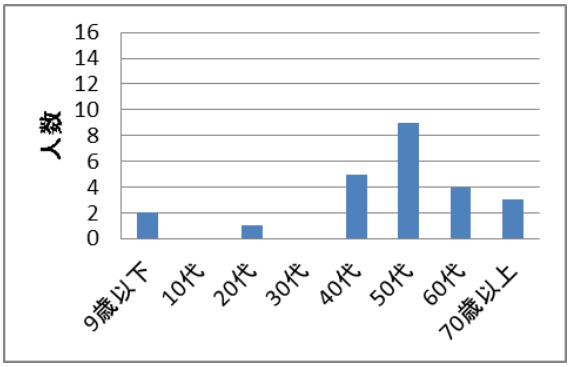
【バードウォッチングの経験回数】



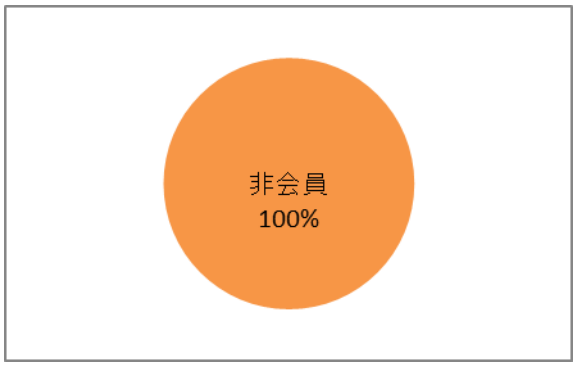
【お住まい】



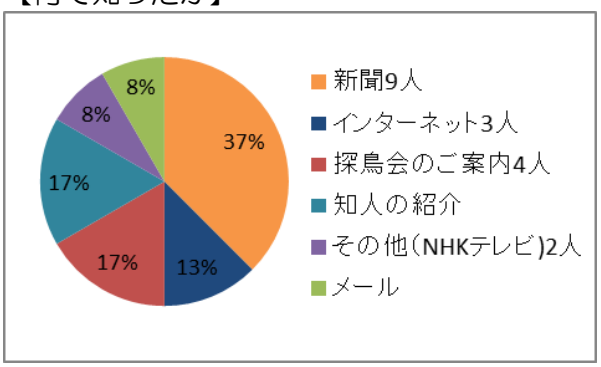
【年齢構成】



【会員／非会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

和歌山城を中心に整備された和歌山城公園は、アクセスがとても便利な和歌山市中央部に位置します。公園内には茶室や庭園をはじめ歴史館や動物園などもあり、多くの市民が散歩、ジョギング、子どもたちの遠足に利用する都会の中の癒しスポットです。

探鳥会は、24 名の参加者を迎えて、お堀や池にいる水鳥や林の中の鳥を観察しながら公園内をぐるりと一周するコースで行われました。

■探鳥会の様子

寒すぎない穏やかな天候の朝です。集合場所の広場には何台もの望遠鏡とともに緑色のフラッグが立ち、遠くからでもよくわかります。受付ではリーダーたちが
「おはようございます！」
「双眼鏡はお持ちですか？」
「これが今日の資料です。」
と、一人一人に声をかけて参加者を出迎えます。この日は
「お一人一枚ずつお好きな絵ハガキをどうぞ！」
とプチプレゼントが用意してありました。参加者が嬉しそうに選ぶ様子からは、最初の緊張した面持ちはきれいに消えています。参加者をリラックスさせるちょっとした工夫が素敵です。

最初のあいさつに続き、コースや時間の説明があり探鳥会がスタートしました。

まずはお堀の周辺でマガモやオシドリ、シメやツグミを観察しました。ハシボソガラスやハシブトガラスも観察してゆっくりとウォーミングアップの時間を取ります。移動の前には必ず
「よろしいですか？次へ行きますよ」
と声をかけていくので、観察に夢中になってしまいがちな参加者も遅れることなく移動ができていました。

初心者でも観察しやすいヒヨドリやハクセキレイなどは時間をかけて解説してくれます。
「ヒヨドリが波状に飛ぶのは、一生懸命飛ぶ、疲れて休んでるうちに高度が下がっちゃう、大慌てでまた飛ぶ、を繰り返してるんです。」
「今のハクセキレイはまだ若いですね。双眼鏡で見るとくちばしの端が黄色いでしょう？これがまだ若い鳥の特徴です。」
丁寧な説明に誘われて、参加者からも次々に質問が飛び出していました。

探鳥会も終盤、公園の外の街並みを見渡せる場所では鉄塔の上から地上を見下ろすハヤブサを観察することができました。参加者はこんな都市部でハヤブサが見られることに驚きながらも、精悍な姿をスコープでしっかり捉えてとても満足した様子でした。

鳥合わせで 25 種を確認。充実した探鳥会となりました。

▲野鳥の看板を活用して解説

■参加者の声

40 代ご夫婦：先日の動物園のイベントでの写真展示で興味を持ち、そこで誘って頂いたので参加しました。家に来る鳥がヒヨドリだとわかってさらに興味が出ました。

50 代男性：少し前にたまたま見たハチクマの渡りに感動して、野鳥観察を始めたところです。このような探鳥会でどんどん勉強していきたいと思い参加しました。

■まとめ

観察会が始まって間もなく、メインリーダーから他の公園利用者への配慮の仕方や観察マナーについての話がありました。経験の浅い参加者に向けてこそ、きちんと必要なエチケットを伝えようとされるリーダーの姿勢が素晴らしいと思いました。

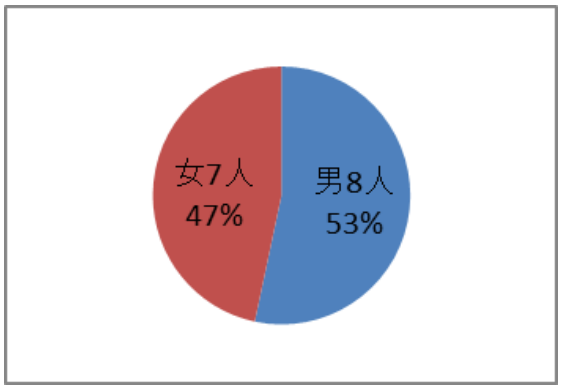
参加者の中には、和歌山県支部が係わった他のイベントでこの探鳥会を知りました、という方が何組かありました。日頃からの外部へ向けての働きかけが、確実に新しい参加者層を生み出すことを示す、好例だと思います。

（普及室／浅野綾子）

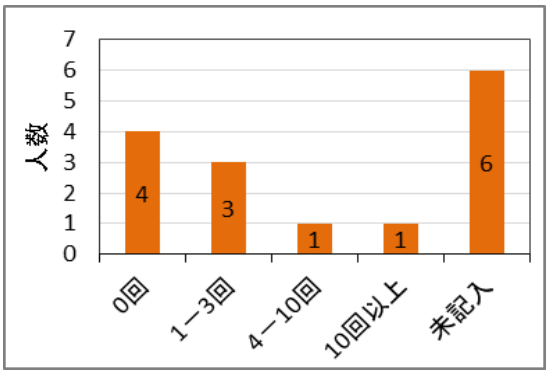
『岩舟・みかも山ビギナー探鳥会』（栃木）

【日時】2015 年 12 月 12 日（土）９時～12 時
【天候】晴れ
【場所】みかも山公園
【参加人数】15 名
【リーダー】８名
【お試し入会】２名（非会員のうち２割弱）
【広報】
＜インターネット＞ 財団 HP、財団 Facebook、環境らしんばん
＜メール＞ 一斉メール送信（10/20、21 に全国の 29,269 名に送信）
＜チラシ＞ 探鳥会のご案内（9/20 から全国 35,000 名に送付）

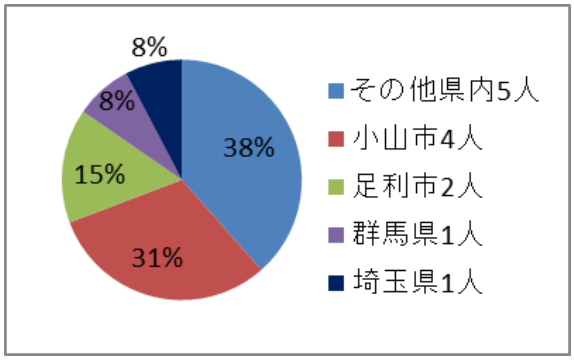
【性別】



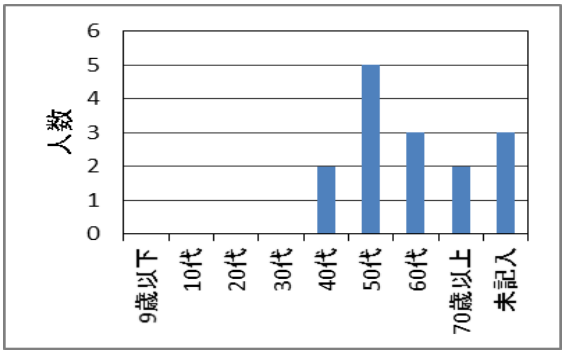
【バードウォッチングの経験回数】



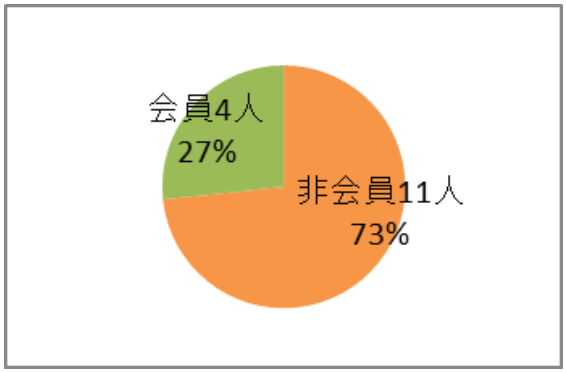
【お住まい】



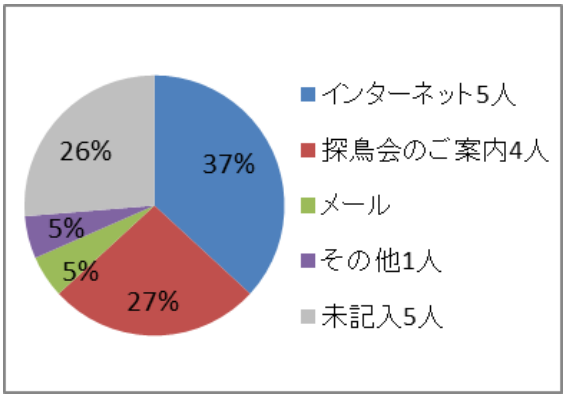
【年齢構成】



【会員／非会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

日本野鳥の会栃木では、今年度 10 回のビギナー探鳥会を企画しています。県内のいろんな場所に住む人が参加できるよう、開催場所を変えて実施しています。

みかも山公園は、栃木県の南部、標高約 230m の三毳山（みかもやま）の山麓にある都市公園です。子どもの遊具を備えた広場や、全域に渡り整備された散策路があり、子どもから大人まで楽しむことができます。

探鳥会では、駐車場に集合し、散策路を歩き、水辺や山野の野鳥を観察しました。

■探鳥会の様子

よく晴れて、日差しの下では暖かさを感じる日になりました。受付では、支部と財団で用意した貸出用の双眼鏡や販売商品を揃えて参加者をお待ちしました。

50、60 代の方を中心に 15 名が集まり、本日の流れや日本野鳥の会の説明をして探鳥会が始まりました。

早速三毳山の頂上にノスリが現れ、双眼鏡の使い方を確認しながら観察。

「はばたかずに輪を描いて飛んでいますね。上昇気流を利用しています。」

とリーダーが教えてくれます。

公園の看板を使ったルートの紹介があり、散策路に向かいました。林に入ってすぐの池ではカワセミが見つかりました。しばらく動かないでとまっていたため、全員で望遠鏡を使いじっくり見ることができました。

途中、鳥が少ない場所もありましたが、リーダーがいろんな話で楽しませてくれました。

「春になると黄色の花を咲かせるサンシュの木です。実はヒヨドリが食べます。もうつぼみができていますね。」

「ゴンズイの実がなっています。赤く見えるのは萼（がく）です。実は黒いですが、赤色が目立つため、鳥が食べにきます。」

朽木でキツツキがあけた穴の紹介があったときには、

「こんなに大きな穴をあけるのですね。」

と参加者もびっくりしていました。

最後に紙芝居を使った鳥合わせをし、お試し入会の案内がありました。

▲池でカワセミを観察

■参加者の声

50 歳くらいの女性：初めて参加しました。動物園でライチョウを見てから、鳥がかわいいと思うようなり、興味を持ちました。庭に来る野鳥を見ています。今日はカワセミを初めて見られて嬉しかったです。

60 歳くらいの男性：野鳥の鳴き声が気になり、インターネットで調べていたら日本野鳥の会の HP に辿りつきました。「鳴き声ノート」を送ってもらい、その後探鳥会の案内チラシが届いたので、参加しました。

■まとめ

見られた野鳥は 10 種程でしたが、お話した初参加の方たちは、「ヒヨドリが波を描いて飛ぶことを初めて知りました」「カワセミとジョウビタキを初めて見ました」と、じっくり観察できた分、記憶に残る探鳥会となったようでした。

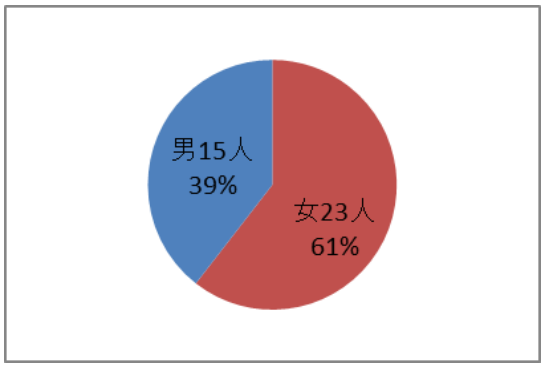
野鳥が見られないときにも、木の実やキツツキの痕跡のお話から野鳥の存在を感じることができました。知らなければ何気なく通過してしまう場所ですが、リーダーの一言で自然に対する気づきが得られ、その役割の大きさを感じました。

（普及室／堀本理華）

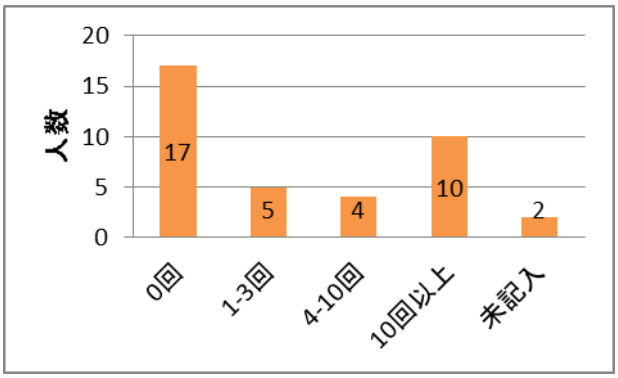
『初めてのバードウォッチング』（京都支部）

【日時】2015 年 12 月 13 日（日）９時～11 時 30 分
【天候】曇り
【場所】岡崎疏水沿い
【参加人数】38 名
【リーダー】３名
【お試し入会】３名（非会員のうち１割）
【広報】
＜インターネット＞ 財団 HP、財団 Facebook、環境らしんばん
＜メール＞ 一斉メール送信（10/20、21 に全国の 29,269 名に送信）
＜チラシ＞ 探鳥会のご案内（9/20 から全国 35,000 名に送付）
＜支部報＞ そんぐぽすと
＜新聞＞リビング京都（11/14）、京都新聞（12/11）

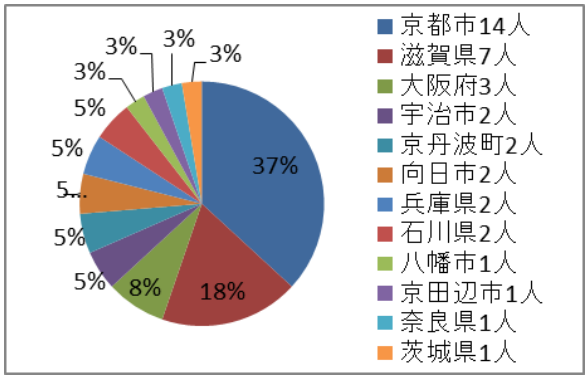
【性別】



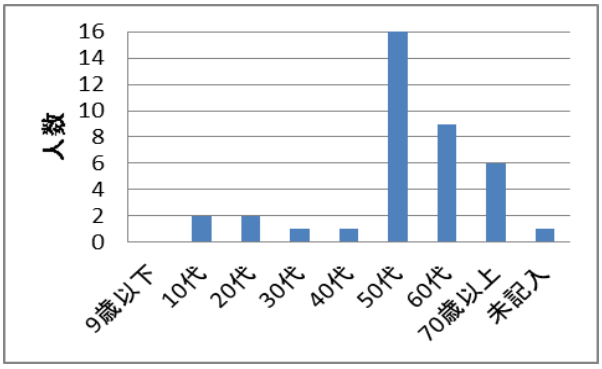
【バードウォッチングの経験回数】



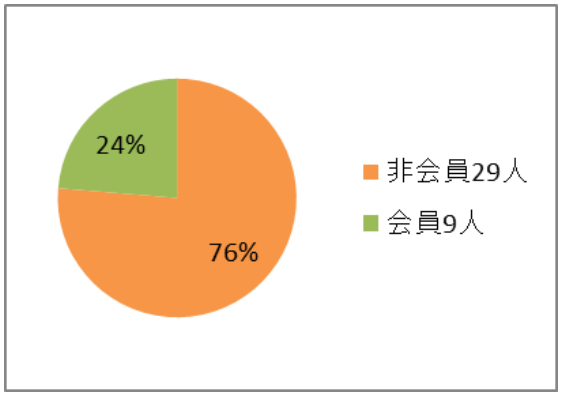
【お住まい】



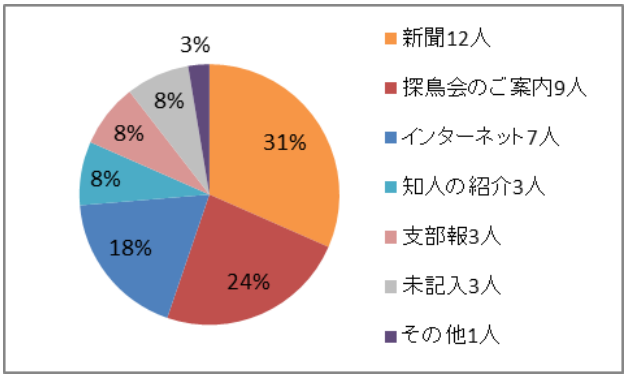
【年齢構成】



【会員／非会員】



【何で知ったか】



■探鳥会概要

岡崎疏水は、琵琶湖から京都に水を送るために作られた疏水の一部で、その沿岸には平安神宮や京都市美術館、京都市動物園などが立ち並ぶ京都でもメジャーな観光スポットの一つです。

スタートの地下鉄蹴上駅からゴールの夷川（えびすがわ）発電所までの疏水沿い約 2km のコースを、水上のカモ類を中心に観察しながらゆっくりと歩く探鳥会です。

■探鳥会の様子

薄い雲の合間から時おり日差しがのぞく暖かく明るい探鳥会日和で、集合場所の蹴上駅改札前には続々と参加者が集まってきました。リーダーがにこやかに出迎え、受付を手際よく行っていきます。

「詳しい説明は場所を移して行います。そちらにトイレもあります。」

「通路が狭いので探鳥会参加の方はこちらでお待ちください。」

と、参加者だけでなく、他の駅利用者へのさりげない配慮が随所に見られました。

参加者を誘導して岡崎疏水の起点にある琵琶湖疏水記念館に移動し、コース・時間の説明がありました。探鳥会スタート前には

「今日のリーダーは腕章をつけた私たち 3 名ですが、他にも望遠鏡を担いだ人はベテランさんだから、聞けばなんでも親切に教えてくれるはずです。（ベテラン会員に向き直って）教えてくれますよね？（ニッコリ）」

と、笑いを誘いながらベテラン会員も上手に巻き込んで、初心者をサポートする雰囲気を一気に作り上げたのがとても鮮やかでした。

最初の観察ポイントでは、お手製の A4 サイズのシートを利用して丁寧に双眼鏡の使い方の説明をされました。大変わかりやすく、参加者も双眼鏡の使い方に自信を持たれたよう。疏水に浮かぶキンクロハジロやヒドリガモ、樹上にいるアオサギなどを双眼鏡で観察し、

「きれいだねえ」

「すごく可愛い！」

と感嘆の声があちこちから上がりました。

樹冠に群れるカワラヒワやスズメ、流れに浮かぶホシハジロやヨシガモ、カワウなどを疏水に沿って歩きながら観察しました。リーダーとベテラン会員がそれぞれ４、５人の参加者と歩きながら目の前にいる鳥を観察しましたが、羽の標本や図鑑を示したり、望遠鏡での観察を勧めたり、参加者が観察を楽しめるように細やかな工夫をされていました。

ゴールの夷川発電所ではゆっくりと観察時間を設け、移動しながらでは説明しにくかったことを解説したり、いろいろな参加者に話しかけたりと、まとめに向けてさらに探鳥会の内容の深度が増していると感じました。

鳥合わせで 22 種を確認。参加者の野鳥への親しみがぐっと深まった探鳥会でした。

▲双眼鏡の使い方を皆で特訓

■参加者の声

60 代女性：自分の双眼鏡ですが今までは使い方がわかりませんでした。右側のレンズのダイヤルの意味（注:視度調節のこと）がわかって鳥がよく見えるようになりました。

20 代女性：鳥のことに興味があって、全く初めてですが一人で参加しました。かわいい鳥がたくさん見られてとても楽しかったです。

■まとめ

得意分野を活かしたリーダーの役割分担や、ベテラン会員への協力要請など、初心者向け探鳥会であることをしっかりと意識した運営が素晴らしいと思いました。

特に双眼鏡の使い方など、経験の浅い参加者の観察技術を引き上げるための工夫をしっかりすることは、参加者の次回探鳥会参加へのモチベーションを高める大きな力になると感じました。

（普及室／浅野綾子）

「Facebook ページで探鳥会情報を発信しよう！」

近年「自然環境を守ろう」という意識は日本社会に確実に広がっています。しかし、日本野鳥の会の会員の減少傾向が続いているのはどうしたことでしょうか？

私は、全国支部の情報発信の頻度や手段がまだ不足しているのではないかと思っています。社会のニーズに合わせて、探鳥会などの情報を発信するチャンネルを拡大すれば、必ずや会員拡大につながると思います。

そこで今回は、Facebook ページを立ち上げて情報発信を行ってきた岡山県支部の取り組みをご紹介させていただきます。

■facebook ページをお勧めする理由

昨年、日本野鳥の会栃木から「簡単なホームページ作成サービス『Jimdo』のすすめ」が提案されました。（探鳥会スタッフ通信 2014 年７月号）

Facebook は、HP を開設するよりももっと簡単に情報発信することが可能です。

岡山県支部では、「ホームページ野鳥おかやま」（1998 年 12 月）、「支部 Twitter」と「WBSJ 岡山ブッポウソウ保護活動 Twitter」（2012 年８月）を開設し、ブログ、Facebook ページなども試してきました。その体験を通じて、行事予定と探鳥会情報だけであれば、「Facebook ページ」が初心者にでも扱い易く、かつ簡単でアピール度も高いと思うようになりました。

～理由その１～

＜口コミで迅速に情報が広がる＞

まず一般的な個人の Facebook ですが、その最大の特徴は、口コミの電子版であるということにあります。あらかじめ野鳥が好きな Facebook ユーザーの方とネットワークを作っておくことで、記事を投稿すると、知り合いから知り合いに加速度的なスピードで情報が広がっていくのが最大の特徴です。短期間に特定の層の人たちに広報したいときに Facebook はもっともその威力を発揮します。

Facebook ページとは、ビジネスの広告用として Facebook 社が提供しているツールで、多くの企業やブランド、アーティスト、グループや団体が利用しており Facebook 上の「広告ページ」としての機能を持つものです。

実名登録の「個人 Facebook」とは目的も機能も違うネット広報の主要ツールとして広く活用されていますので、安心して利用できます。

～理由その 2～

＜字数制限もなく、特別な知識が不要＞

HP の作成には HTML 言語の知識が必要です。Twitter は１つの書き込みは 140 字以内の制限があるため情報を十分には伝えられません。その点 Facebook ページは字数制限もなく特別な知識も必要ありません。

～理由その 3～

＜操作が極めて簡単！＞

「Facebook ページ」は無料で利用できます。容量も特に制限はありません。ただし、全体の仕様は決まっていて、HP のように画面のレイアウトを自由に動かすことはできませんが、ワープロ感覚でネット上へ投稿（アップ）できます。

投稿記事は日付の順番に掲載されていきます。もしトップに固定したい投稿があればその選択もできますし、任意に日付修正もできます。様々な項目を個別に公開/非公開と設定できますし、投稿後であっても記事を修正/削除できるので、安心して利用できます。

探鳥会情報（写真、動画も可）を発信するだけなら、ブログなどよりもずっと簡単に活用できる広報ツールです

■岡山県支部の facebook ページ

岡山県支部の facebook ページでは、カバー画像は支部報表紙の野鳥写真、プロフィール画像は支部シンボル〝ヤマセミ〟をトップに配置しています。

本文（タイムライン）は、当月行事予定を一番上に固定し、そのすぐ下から最新の探鳥会情報が順次配置されています。

探鳥会終了後、Facebook ページにその探鳥会の速報記事（画像も追加）を投稿します。すると即座に、行事予定（固定）のすぐ下に「最新記事」としてアップされ、「いいね！」で支援してもらっている個人の Facebook へも同時にアップされるのです。

Facebook ページへ投稿した記事は、これまでは Yahoo や Google などでは検索できませんでした。そこで、HP のトップページからリンクさせて、会員でも非会員でも探鳥会に参加できなかった人が支部 HP にアクセスすれば、Facebook ページの「今日の探鳥会情報」を即日入手できる仕組みにしています。

■Facebook ページを開設しよう

(1) 用意しておくもの

①作成する Facebook ページの「名前」、②ネット環境、③パソコンかタブレット端末、④カバー画像（表示 315×851pixels）、⑤プロフィール画像（表示 180×180pixels）です。

▲岡山県支部の facebook ページ

(2)「Facebook ページ」の登録手順

① 新たに、Gmail 等で管理者個人（専用）のメールアドレス、パスワードを登録しておく。

② facebook for business サイトへアクセス。
https://www.facebook.com/business/

③ 右上の「FACEBOOK ページを作成」をクリックして、手順に従って登録操作を行う。

④「会社または団体」の非営利団体などを選び、その下には「Facebook ページの名前」を記入します。初回登録時は、あくまで「名前の登録」が目的ですので、他の項目はほとんどスキップして、後日に登録すればよいでしょう。

▲丸で囲った辺りに「作成」の文字があります。

(3) 投稿の書き込みポイント

次に Facebook ページの説明を見ながら、探鳥会情報などの記事を順次投稿しましょう。⑤探鳥会日程、⑥探鳥会の記事や紹介写真など。⑦その他投稿したい記事は何でも可能。

作成中は非公開にしておき、ほぼ体裁が整ってから公開すると良いでしょう。

その後は、定期的に行事予定を投稿し、日々の探鳥会報告を投稿して行けば、アクセス件数は上がるはずです。投稿に際して、できれば美しい野鳥写真や Young 探鳥会など話題性のある記事をアップするとアクセス件数が急増します。

(4) Facebook ページを HP として登録します

HP を開設していない支部では HP からのリンクは使えませんので、対外的には開設した Facebook ページの URL を HP として登録して下さい。できるだけ多くの媒体でその URL を公開して、多くの人に知ってもらいましょう。

■ネット上の情報は全世界へと繋がる

みなさんの支部で Facebook ページを開設して、お互いにネットワークでつなぎませんか？

そうすることで会員はもちろんのこと、会員でない方に向けた情報発信もできるようになります。

ネット上に探鳥会情報を一度アップすれば、全世界の人たちがアクセスできる「情報」になります。更に自然破壊などに対する意見表明なども簡単にアップできますので、自然保護活動推進のための貴重なツールにもなるはずです。

既に小学生から IT 教育が始まっている昨今、全国全ての支部から多くの情報が発信されることを切望しています。

注１） 自然保護活動の中には公開してはならない情報があります。希少種や珍鳥情報、場所の特定、個人名などの情報管理については十分に気をつけて慎重に取り扱ってください。

注２）「Facebook ページ」の作成に関して：この原稿執筆中に「facebook for business」サイトの存在に気づきました。また 2015 年 10 月下旬からは公開投稿がネット上で検索できるようになったという大改訂もありました。ネット検索などで最新の情報を手に入れてから、Facebook ページを開設してください。

（岡山県支部幹事／渡辺裕幸）

「神奈川支部で初の女子会開催！」

■企画の経緯

何か新しい企画を思案しつつも、ボランティアで進めている各活動。人手が無い、時間が無い、意欲が湧か無い！の無い無い飽和状態の中、各支部から送られてくる情報には時々「女子会開催」の記事がありました。よしよしこれをやってみよう！と奮起した結果、６名の勇女（勇敢にも参加してくださった素敵な方々）の皆様でワイワイと開催しました。

■女子会の様子

是非参加したいが手術後のため今回は見送りますと開催にエールを送ってくださった方。当日体調を崩してしまい残念ながら不参加。でも当日の様子を聞かせてください、と次回へ繋がりそうな期待を寄せてくださった方。あれこれと励まされ、年末の土曜日に大掃除の手を休めて支部事務所に集まりました。持ち寄ったスウィーツには支部長さんお手製の山の幸たっぷりのサルナシとエビズルのジャム。エビズルにはブドウの何倍ものポリフェノールがあるとか！正に女子会にピッタリな差し入れにもう一品、ヨーグルトケーキを作って来てくださった参加者もいて、クリスマス気分も加わって華やかに始まりました。

▲持ち寄ったスウィーツを囲んで

とりあえずアイスブレイクでくじ引き自己紹介。緊張しながら袋のくじを引きトップバッターを決めるも、なんとも調子の悪い！私が一番手。トホホと最初から企画倒れ感を出しながらボソボソと始めて見ると、順番に話してくださるその内容に皆さん興味津々。あら、以前は女性だけの探鳥会もあったんだ、と神奈川支部の歴史にも話が膨らみ、まずまずのスタート。支部の抱える会員減少問題にも踏み込み、少々話が重くなって来たので、各支部の様子も聞いてみました。（公財）日本野鳥の会普及室から参加してくださった大いなる助っ人若手女史から資料を頂き、各支部で女性だけの探鳥会をやっているところは結構賑わっていることを知りました。どこも支部長さんが女性の活力に大いに期待をかけているようで、いろいろと参考になりました。国を挙げて女性の力を活かそうとしているのですから神奈川支部も負けてはいられません。ふむふむ、今回の話の中にいくつかのヒントが隠れているかもしれないと耳をダンボにして聞きました。最後は女子ならではの取り留めのない（鳥の会だけに＾＾；）話題が上がりました。

・野鳥の会の長靴が普通のお店で売っていてびっくり。５人の参加者が持っていたのにまたびっくり。
・小鳥ブームで飼育鳥の多さに仰天、と同時に「TSUBASA」という団体の会員数が多いのに、またまた大仰天。
・上野動物園のライチョウの死について。
・朝日新聞に載った見せるシマフクロウの是非。
・環境保護の日本人の認識の低さや会費の掛け方とその成果と満足度。（寄付のあり方）
・北海道の小鳥類減少の緊急度とコウノトリやトキなどの生息環境保全の話し。
・野外でさらっとスケッチするテクニックについて。　などなど

■次回に向けて

話は多岐に渡り、最後に１回目を祝して用意したお土産（無償提供＝スケッチブックに折り紙など）をお渡しし、次回開催もお約束して無事に女子会を終えました。次回はもっと多くの方に参加していただき、様々な話から新しい支部の展望を見つけたいと思います。

（神奈川支部幹事／笠原逸子）

◆探鳥会保険集計結果（2015 年 11 月分）

11 月は 67 支部からご報告をいただき、計 247 回の探鳥会が開催され、のべ 5,178 人が参加されました。

表 2. 11 月の探鳥会保険集計結果（2015 年 12 月 15 日現在）

支部	開催回数（回）	参加者数		スタッフ数（人）	合計人数（人）
		会員（人）	非会員（人）		
小清水	−	−	−	−	−
オホーツク支部	1	20	0	1	21
根室支部	−	−	−	−	−
釧路支部	−	−	−	−	−
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	−	−	−	−	−
旭川支部	1	21	6	4	31
滝川支部	1	10	0	1	11
道北支部	0	0	0	0	0
江別支部	−	−	−	−	−
札幌支部	2	44	20	4	68
小樽支部	2	8	9	3	20
苫小牧支部	−	−	−	−	−
室蘭支部	0	0	0	0	0
函館支部	0	0	0	0	0
道南桧山	1	5	5	1	11
青森県支部	−	−	−	−	−
弘前支部	2	13	1	2	16
秋田県支部	3	33	3	3	39
山形県支部	0	0	0	0	0
宮古支部	−	−	−	−	−
もりおか	2	23	1	7	31
北上支部	2	24	0	3	27
宮城県支部	4	56	17	9	82
ふくしま	2	44	0	5	49
郡山支部	2	23	2	6	31
二本松	−	−	−	−	−
白河支部	2	1	1	10	12
会津支部	−	−	−	−	−
奥会津連合	−	−	−	−	−
いわき支部	1	19	1	1	21
福島県相双支部	−	−	−	−	−
南相馬	−	−	−	−	−
茨城県	9	64	40	13	117
栃木	−	−	−	−	−
群馬	5	40	6	21	67
吾妻	−	−	−	−	−
埼玉	11	239	59	72	370
千葉県	11	119	74	54	247
東京	14	408	6	70	484
奥多摩支部	10	107	19	33	159
神奈川支部	11	135	23	42	200
新潟県	1	20	17	2	39
佐渡支部	−	−	−	−	−

富山	2	33	8	2	43
石川	3	36	4	7	47
福井県	2	14	30	2	46
長野支部	4	38	3	7	48
軽井沢支部	1	12	9	1	22
諏訪	0	0	0	0	0
木曽支部	−	−	−	−	−
伊那谷支部	1	6	2	2	10
甲府支部	2	36	2	4	42
富士山麓支部	1	8	0	3	11
東富士	−	−	−	−	−
沼津支部	1	12	0	2	14
南富士支部	3	67	8	12	87
南伊豆	1	3	0	1	4
静岡支部	2	26	5	5	36
遠江	3	62	25	21	108
愛知県支部	13	161	109	35	305
岐阜	−	−	−	−	−
三重	2	13	3	3	19
奈良支部	4	116	28	8	152
和歌山県支部	1	2	4	4	10
滋賀	5	44	28	10	82
京都支部	6	72	20	14	106
大阪支部	17	231	58	74	363
ひょうご	5	86	77	11	174
NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	1	11	6	1	18
島根県支部	2	17	1	2	20
岡山県支部	6	127	43	18	188
広島県支部	3	35	15	8	58
山口県支部	5	27	19	5	51
香川県支部	2	57	5	2	64
徳島県支部	6	74	25	6	105
高知支部	1	9	20	1	30
愛媛	7	85	60	11	156
北九州	4	49	6	4	59
福岡支部	8	132	28	16	176
筑豊支部	3	34	1	3	38
筑後支部	5	34	20	5	59
佐賀県支部	4	35	18	6	59
長崎県支部	−	−	−	−	−
熊本県支部	5	74	24	5	103
大分県支部	3	26	12	3	41
宮崎県支部	1	14	9	1	24
鹿児島	2	31	9	7	47
やんばる支部	−	−	−	−	−
石垣島支部	−	−	−	−	−
西表支部	−	−	−	−	−
全国	247	3,425	1,054	699	5,178

備考：-は保険の申請がなかったことを示しています。

（普及室）

◆普及室からのお知らせ

■『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂新版の取り組み■

◇アカゲラが増えている？

昨年、新たに佐渡島鳥類目録を発行された佐渡支部の方から、前回話題にしたアオジの生息状況について、改めてご教示いただきました。要約すると、海岸に近いアカマツとニセアカシアの混交林で 4～8 月までさえずる個体が観察されていて、巣やひなは未発見であるものの、数つがいが繁殖しているらしいとのこと。アオジが多く観察されるのは春で、秋や冬は少ないそうですが、島全体では 1 年を通して観察されるようになってきたので留鳥と呼べなくもないし、夏鳥や冬鳥として移動しているものがいるかも知れません。

旅鳥として考えた場合、春に多くて秋に少ないということは、何故でしょう？　ちなみに、『鳥類アトラス』（山階鳥類研究所が標識調査の結果をまとめて 2002 年に発行）によると、アオジの 815 例の回収記録のうち、95%以上が秋のようです。春は繁殖のために北上する個体が多いはずですが、佐渡から目指すのは東北や北海道か？大陸なのか？　また、広い越冬分布域（本州以南、南西諸島や中国南部まで含む）のどこから来ているのでしょう？

佐渡支部の方によると佐渡島の目録では、ヒヨドリを留鳥とはしたものの、これも悩ましいそうです。春と秋に、何百、何千羽もが通過していくが、どのような移動をしているか、よくわからないとのことでした。さらに、オオアカゲラが減って、アカゲラが増えているような動向もご教示いただきました。

佐渡島と同じ日本海側の隠岐諸島にはオオアカゲラが分布しており、新版の分布図では、ともに一年を通して見られる茶色を着色しました。佐渡にはほとんどいないアオゲラ、コゲラが隠岐では少なくないらしいことも興味深いのですが、アカゲラは新版で参考文献とした佐渡島の前目録では稀な冬鳥とされていたので、新版の分布図では示しませんでした。ところが、新たな佐渡島の目録では留鳥として普通とされていて、2007 年には繁殖も確認されているそうです。

◇キタツメナガか？シベリアツメナガか？

新版に取り組む契機となった 2012 年の日本鳥類目録改訂第７版発行後も、Strix や鳥学会誌などで新たな記録が発表され続けていると、前回書きました。ルリオハチクイは新版でハチクイの類似種として書き加えたし、ハシブトゴイは絶滅した種として画像や解説を残していたのが幸いした次第ですが、最新の鳥学会誌、64 巻 2 号（2015 年 10 月発行）では、ブロンズトキやツメナガセキレイの一亜種（著者らによると、和名はロシアツメナガセキレイが適当と考えると記されている）の記録がありました。

ツメナガセキレイに関しては、増補改訂版で削除した亜種を新版で復活させたことはお気づきでしょうか？　増補版までは、亜種シベリアツメナガセキレイが図版も含めて紹介されていました。が、この観察や識別について疑問視する見解があったことや当時の目録 6 版には掲載されていなかったことなどから、2007 年、増補改訂版に取り組んだ際、削除しました。新版で再登場させたのは、その後の観察や目録 7 版での掲載に鑑みてのことです。

ただし、渡部良樹さんが 13 亜種とも 17 亜種とも言われるツメナガセキレイの亜種の識別点を検討したくれたので、増補版までの解説は書き直しました。例えば、亜種キタツメナガセキレイは眉斑がないことで識別できるように書かれていましたが、小さいながら眉斑がある点で亜種シベリアツメナガセキレイに似た個体もいるそうです。そこで、眉斑の位置や、眉斑以外の識別点にも触れました。

ただ、ツメナガセキレイの亜種の識別は雄夏羽について論じられることはあっても、雌や冬羽、幼鳥や若鳥などについては信頼できる記載が多くありません。例えば、雌夏羽とされる写真のほとんどが雄夏羽より地味に見えますが、すべての亜種がそうであるとの確証もないので、そのような傾向があると思われるという解説にとどめました。

◇何亜種いるのか？

亜種については、十分研究されているわけではありません。分類には諸説あり、野外識別が難しいとされるものも少なくない中で、『フィールドガイド日本の野鳥』は、野外識別可能な亜種については掲載する方針でした。増補改訂版では、目録６版で亜種から種に変更されたウチヤマセンニュウやリュウキュウコノハズクを書き直したり、日本で複数の亜種が記録されている種は、種名の横にマークを表示するようにしました。オオヒシクイのように亜種が識別され、亜種名もよく使われるようになったものは紹介するように努めたし、和名では種名と亜種名の混乱があるので、亜種の和名は、解説文中では灰色文字にする工夫も試みました。

新版では分類や亜種名を目録７版に準拠させる方針としながらも、目録７版とは違う見解（キジ、コガモ、クビワオオシロハラドリ、トラツグミ、オジロビタキなど）も紹介に努め、目録７版に掲載された全種、全亜種はリストにして、巻末に掲載しました。

その最初のキジ目キジ科では、５種の中で４種が亜種に区分されています。亜種に区分されていないのはウズラだけですが、エゾライチョウとライチョウは日本では１亜種だけなので、解説頁では種名の横に亜種マークはありません。ここでは種名ライチョウの下に亜種名ライチョウがあるので、日本以外に亜種ライチョウ以外の亜種がいることがわかります。

以前述べたように（2015 年２月号）、亜種名の右に主な分布を表すようにしましたが、目録７版で要検討とされたものには「？」を示してあります。例えば亜種キジで「？本（北）・佐」と記されているのは、亜種キジは本州北部と佐渡島に分布していることになっているが、検討を要するという意味です。

参考までに目録７版に掲載された 633 種のうち、亜種に区分されない種をカウントしてみたら 286 種になりました。つまり、半数以上の種は亜種に区分されていることになりますが、ライチョウのように日本では１亜種のみという種は 217 種でした。また、亜種不明として種が掲載された種は 27 種に及び、種子島のコゲラなど留鳥とされながら亜種不明という例、キジやヤマドリの亜種のように分布を含め検討を要する例、さらにシマハヤブサなどの絶滅したとされる亜種もあります。目録６版で絶滅とされたダイトウウグイスが目録 7 版で復活した例（2015 年 2 月号）もあり、日本で何亜種になるのか？は簡単に答えられません。

（普及室／安西英明）

▲今回は、新版で谷口高司さんに追加していただいたキヅタアメリカムシクイ（若鳥）の画像を紹介します。目録７版では本種の 2010 年１～4 月の記録を *Setophaga coronata coronatat*
と掲載しており、亜種まで同定しています。学名は属名と種小名の２つで種を表し、さらに亜種小名で亜種を表します（新版では、亜種小名を灰色文字で示す工夫をしてみました）。

◆今月の購読者数

探鳥会スタッフ通信１月号の電子メール版の購読者数は、先月から４名増えて 802 名です。支部ごとの購読者数は以下の通りです。

表３．探鳥会スタッフ通信 12 月号電子メール版の購読者数（2016 年１月 12 日現在）

支部	購読者数	支部	購読者数
小清水	1	福井県	10
オホーツク支部	6	長野支部	2
根室支部	0	軽井沢支部	2
釧路支部	2	諏訪	4
NPO法人日本野鳥の会十勝支部	70	木曽支部	1
旭川支部	4	伊那谷支部	1
滝川支部	1	甲府支部	3
道北支部	1	富士山麓支部	0
江別支部	0	東富士	0
札幌支部	4	沼津支部	3
小樽支部	3	南富士支部	2
苫小牧支部	2	南伊豆	2
室蘭支部	5	静岡支部	3
函館支部	0	遠江	6
道南桧山	2	愛知県支部	33
青森県支部	1	岐阜	5
弘前支部	4	三重	19
秋田県支部	3	奈良支部	3
山形県支部	5	和歌山県支部	5
宮古支部	1	滋賀	19
もりおか	3	京都支部	31
北上支部	2	大阪支部	25
宮城県支部	39	ひょうご	14
ふくしま	3	NPO法人日本野鳥の会鳥取県支部	11
郡山支部	1	島根県支部	2
二本松	1	岡山県支部	23
白河支部	2	広島県支部	8
会津支部	2	山口県支部	4
奥会津連合	0	香川県支部	6
いわき支部	1	徳島県支部	6
福島県相双支部	0	高知支部	1
南相馬	0	愛媛	14
茨城県	21	北九州	12
栃木	45	福岡支部	11
群馬	24	筑豊支部	19
吾妻	1	筑後支部	6
埼玉	37	佐賀県支部	4
千葉県	18	長崎県支部	1
東京	51	熊本県支部	5
奥多摩支部	47	大分県支部	2
神奈川支部	20	宮崎県支部	3
新潟県	1	鹿児島	1
佐渡支部	1	やんばる支部	0
富山	3	石垣島支部	1
石川	29	西表支部	2
		合計	802

（普及室）

◆探鳥会スタッフ通信（電子メール版）の購読について

探鳥会スタッフ通信は、支部の探鳥会スタッフならどなたでも購読できます。（無料です）

ご希望の方は、「探鳥会スタッフ通信希望」と明記のうえ、①支部名 ②担当している探鳥会名 ③お名前 ④ご住所 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス（パソコンやスマートフォンのアドレス）を記入し、tancho-staff@wbsj.org へお申し込みください。バックナンバーとともにメール版を送信いたします。

配信を希望されない、メールアドレスの変更などについても、tancho-staff@wbsj.org までお知らせください。

★編集後記

松の内は過ぎてしまいましたが、明けましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

今年は暖かいせいか、庭のロウバイが 12 月の末から咲き始めています。そのロウバイを狙ってヒヨドリが毎日やってきて・・・花を丸ごと食べていくのを複雑な心境で見守るお正月でした。

今年も沢山の鳥たちと、そして何よりも皆さまとの出会いを大切にしたいと思います。探鳥会スタッフ通信や探鳥会を通じて、どうぞ宜しくお願い致します。

（普及室／植木陽子）

日本野鳥の会
探鳥会スタッフ通信 第 34 号
◆発行
（公財）日本野鳥の会　2016 年 1 月 15 日
◆担当
普及室　普及教育グループ
〒141-0031
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
TEL：03-5436-2622
FAX：03-5436-2635
E-mail：tancho-staff@wbsj.org